



モノづくり通

2016
11

November



みづほ興業株式会社

今期 BME 展で、尾州ウールに求められたモノとは？

みづほ興業・インパナ事業部は、〈尾州展・構成企業の一社〉として春・秋年 2 回の東京展示会に、2002 年から 13 年間継続して出展し、東京市場の長期的な流れを掴みモノづくりに反映しています。

今回の 2016~17AW シーズンでも、10 月 12 日から 14 日まで東京・青山テピアにて開催の『BME・尾州マテリアルエキシビジョン』において、〈インパナ事業部のテキスタイル〉と〈みづほ興業の後加工技術〉を通して、多方面の方々とのコミュニケーションからなまのご意見や最新の情報を頂き、次なる時流を探ってきました。

BME 会場の客入りは全日盛況で、世代交代を終えた新生・大手アパレルや、セレクト業態の若いデザイナーを中心とした来場者たちで賑わっており、誰もが《売れない時代に欲しくなる素材、ファストファッションとハッキリ棲み分けが出来るニューリッチ層に向けた、目新しい素材》を探していました。

今期動向の総合的な特長は、地球の温暖化による暖冬続きで分厚い毛織物が求められなくなってきたこと。そのことが展示会のスワッチ請求の数字に例年の比でないほど明確に現れており、参加企業のほとんどが、今後の中肉～厚手ウールの売れ行きに危機感をもっています。

現状のアパレル倉庫には《バーゲンでも売れなかった、去年から持ち越しの紡毛コート》の在庫があり、毛織物に対するマンネリ感が重く停滞していて、特に紡毛は糸や織りに工夫をしてよほど目新しくしない限り「紡毛はいらない。もっとウールらしくない物が欲しい。」とか、「さらりと着るコーディガンに使えそうな薄手梳毛や、合織ライクなモノを探している。」という声が圧倒的に多く聞かれました。



仕立て上がり製品展示



熱心に見入る、若手バイヤーが目立つインデックスコーナー

ミラノに続き *BME* でも 《Re・Born 弾》 が大人気



それぞれの生地に、それぞれの《Re・Born 弾》
《Re・Born 弾》の表情には無限の広がりがある・・・



《Re・Born 弾》加工
と未加工の同素材を
組合せた製品

さて、そんな状況下の今シーズンにおいて、発売 3 年目を迎えた当社の Re・Born 弾は、次世代アパレルデザイナー達を中心に、商社からテキスタイルメーカーまで益々期待が高まっています。

先の 9 月開催・ミラノウニカにおいて、Re・Born 弾が本場イタリアでトレンドに採用された事と、去年の企画が現在の市場に売れる実績を作っていること。この二つの要因は大きな話題となっており、当社ブースへのほとんどの来店者が「Re・Born 弾」の確認に目的を絞っていました。紡毛ウールが敬遠される中で、何故「Re・Born 弾」だけは好まれるのか・・・
答えは、ズバリ！ ウールらしくない、ハイブリッド素材の魅力です。

また、ミラノウニカで手ごたえを得て、*BME* 展用に「Re・Born 弾」の下生地バリエーションを増やし比較展示したので、同じ「Re・Born 弾」でも、どんな下生地に加工したものがより好まれるのか、データ収集が出来ました。

一番人気は、ミラノ・上海・東京ともに同じ。カラミアンゴラの、
〈Re・Born 弾〉

揉み和紙のような薄被膜の不思議な凹凸の表面感



一つの素材が数種類の後加工で、別物に変化するバリエーション展示

そして上海インターテキスタイルも 《Re・Born 弾》

10月11日～13日、BME とほぼ同時期に、中国・上海にてインターテキスタイル開催。こちらにもミラノウニカと同じく、尾州企業チームの一社として社員を派遣し、Re・Born 弾を主軸とした出展と、中国市場の情報収集をして来ました。

今回、尾州のブースがウールのブースでのメインストリートに面していて、大通りがつながる中々良い場所に展示出来ていた。尾州ブースの周りには名だたるブランドが出展し、上海での開催である為、中国系のメーカーが目立って多かった。

3日間を通して、尾州のブース全体的にはシャギーなど毛足のあるもの、表情のあるものが好まれているよう。モヘヤ、キャメルなど原料がいいものを手にする人が多かった。色的には、数年前の派手な中国のイメージとはガラリと違い、ベーシックな色合いが好まれている。

その中でも、弊社の Re・Born 弾は多くのピックアップがあり、人気は高く表情感の不思議さから選ぶ人が多い傾向にある。他社メーカーから発売の弾シリーズもピックアップ多数で《下生地が変われば、それぞれはまったくの別の顔》であり、各社とも結構評判は良い気がした。



ジャパン・尾州ブース in インターテキスタイル

* 今の中国市場トピックス

- ・上海の中心とも言える、世界的なブランドショップを一か所に集めた南京西路通り、ここでの客はまばらであるが、購入する人は紙袋を3個、4個と抱えている爆買い富裕層は健在。
- ・近所にあるユニクロは若者に大人気で、ユニクロの商品構成も、日本と変わらないベーシックな色合いが中心。
- ・一步裏通りには昔ながらの貧しい暮らしがまだまだ点在している。



オールジャパンインデックスに
展示された Re・Born 弾製品

今こそ、独創的で唯一のテキスタイルを！！

9月のミラノウニカ、10月の東京 BME、そして上海インターテキスタイルと、たて続けに3ヶ国の展示会で〈Re・Born 弾〉が高い評価を得ていますが、それぞれの現地に赴き見えてきたコトは、尾州の町工場みづほ興業が開発した泡のクラフト加工〈Re・Born 弾〉は、とてもゆっくりと、少量ずつではありますが、確実に開発チームの想定を追い抜き、世界のハイブランドに向かって独り歩きを始めている事実です。

この世に無いものを、世に出そうとしているのですから、〈Re・Born 弾〉を開発した者のみならず、販売する商社も、購入するアパレルも当然リスクを伴いますが、リスクのない前進はありません。そして、次なる時流は、リスクをモノ語りにできる企業と企業が商品をシェアし合うコトの価値です。

今の〈Re・Born 弾〉の評価は、尾州毛織物の評価と共にありますが、これからの〈Re・Born 弾〉の需要を広げるのも狭めるのも、加工で絡み合う織物の選定しだいになります。

《それぞれに個性を持つ尾州毛織物》は〈Re・Born 弾〉との二人三脚で、一つとして同じ物は無い、独創的で世の中に唯一のテキスタイルに生まれ変わることが出来ます。

A社・B社・C社、それぞれの特徴ごとにまったく違う表情の〈Re・Born 弾〉が生まれます。

もちろん Re・Born 加工ができる毛織物は、加工試験のラボ結果に合格した素材に限られており、種類は限定されますが、それこそがハイブランド製品に高い価値を提供しえる条件でもあります。

《Re・Born》加工受注のお知らせ

〈Re・Born 弾・テキスタイル〉は、インパナ事業部・商品群の一つとしてアパレル・商社に販売していますが、並行して昨年よりテキスタイルメーカーに向けて〈Re・Born 弾・加工のみ〉の受注も開始しています。また、既に完成した生地を《Re・Born》でリニューアル加工できないだろうか？というご要望にもお応えしておりますので、「コレは！」というテキスタイルがあれば、下記まで一度お気軽にお問い合わせください。



BME・自社ブースでの担当者です。
モットーは「できるまで、あきらめない！」

みづほ興業株式会社

〒494-0006

愛知県一宮市起字与三ヶ巻 52 番地 1

担当 副社長 水谷 吉孝

yoshitaka@mizuhokogyo.co.jp

インパナ担当

取締役インパナトーレ 水谷 光孝

mitsutaka@mizuhokogyo.co.jp

TEL 0586-62-3141

FAX 0586-62-3150